

定置網情報

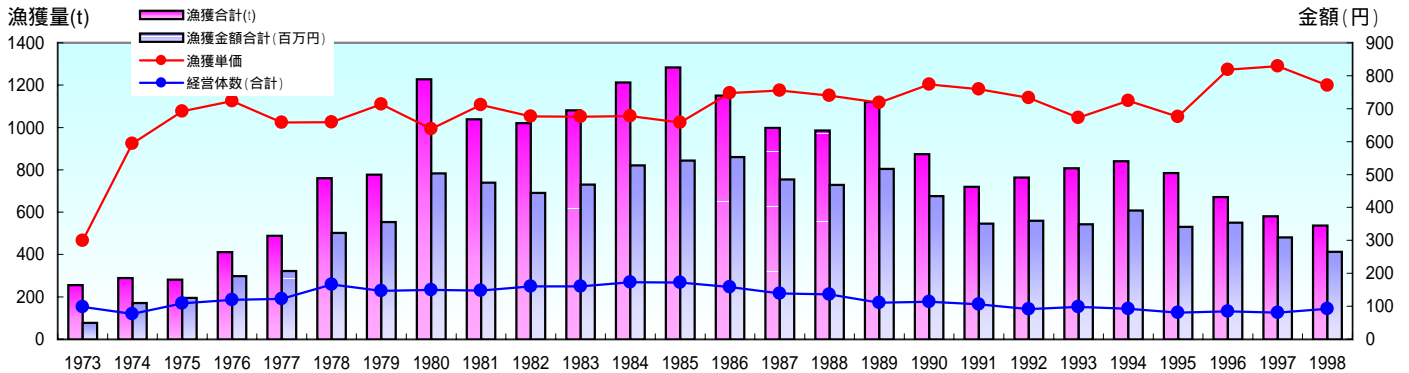
沖縄県水産試験場

〒901-0305
 沖縄県糸満市西崎1-3-1
 TEL(098)994-3593・3597
 FAX(098)995-2357

第5号 (2001年3月発行)

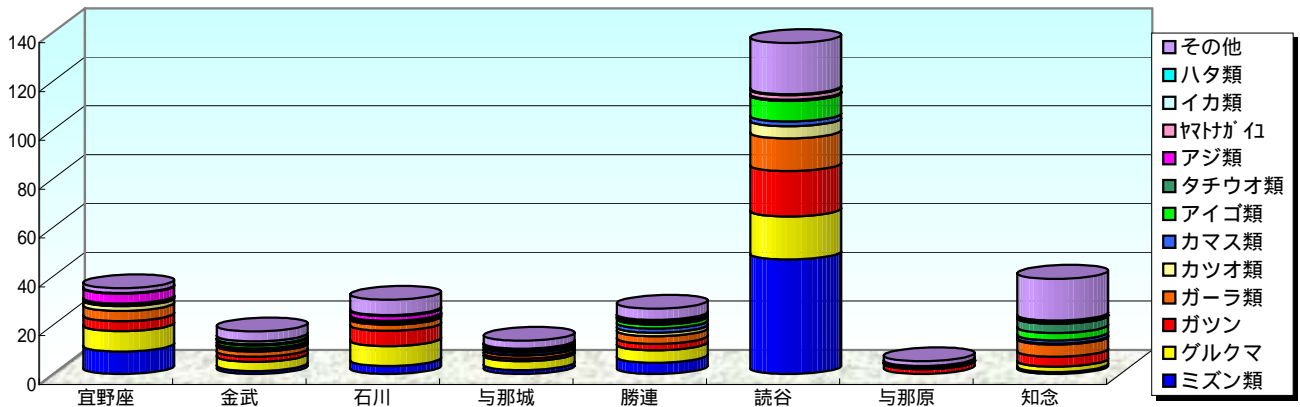
下の図は、本県の定置網漁業の漁獲量・金額・単価の変遷について示したものです。(1972年～1998年) 漁獲量は、復帰後順調に伸び、1980年には1227tの漁獲を記録しました。その後漁獲は伸び悩み近年は減少傾向にあるようです。

沖縄県における定置網漁業の変遷 (漁獲量・金額・単価)



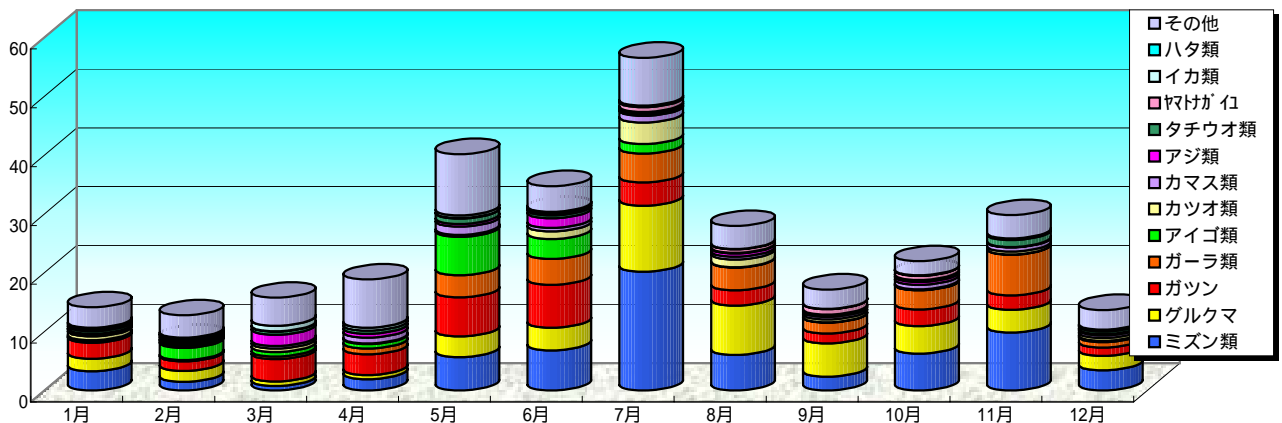
沖縄農林水産統計年報 (沖縄開発庁沖縄総合事務局農林水産部) より作成

2000年本島8漁協別魚種別漁獲量 (単位: t)

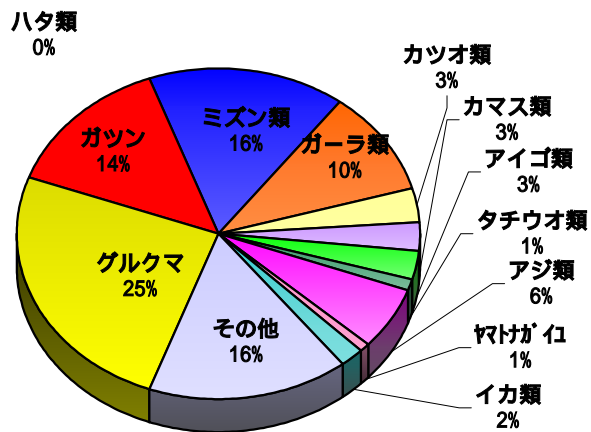
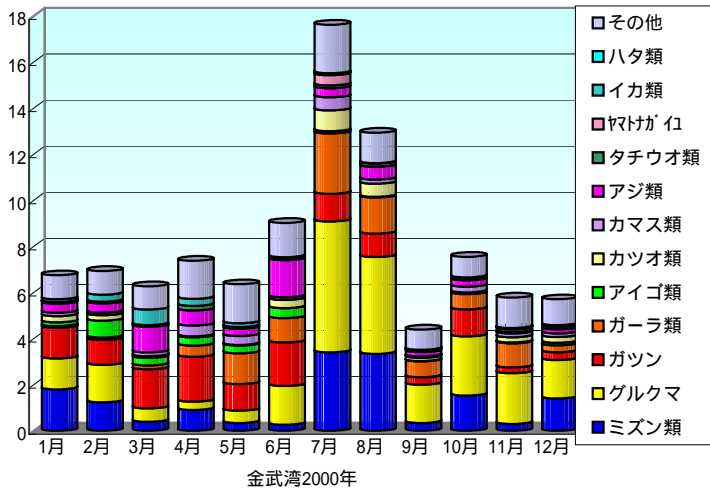


上の図は、2000年の本島8漁協の定置網の漁獲状況を魚種別に示したものです。読谷(本島西海岸)では、他の漁協(本島東海岸)と比べてミズンの漁獲が多く、またガツン・グルクマの水揚げも多かったので漁獲量が突出しています。また、下の図は2000年の本島8漁協の月別漁獲量を示しています。5月から7月にかけての漁獲が多くなっています。7月は、読谷のミズンの漁獲量が全体の漁獲量を押し上げています。

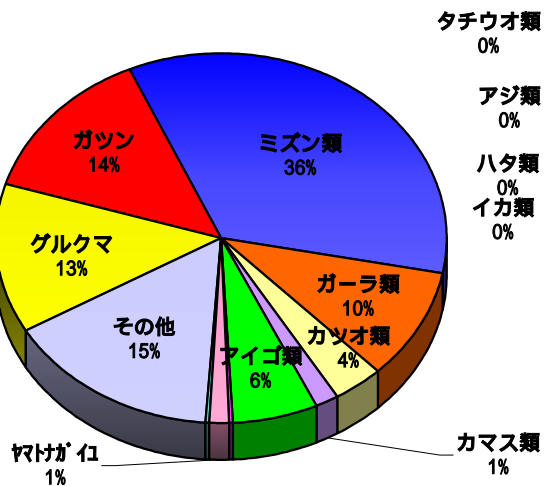
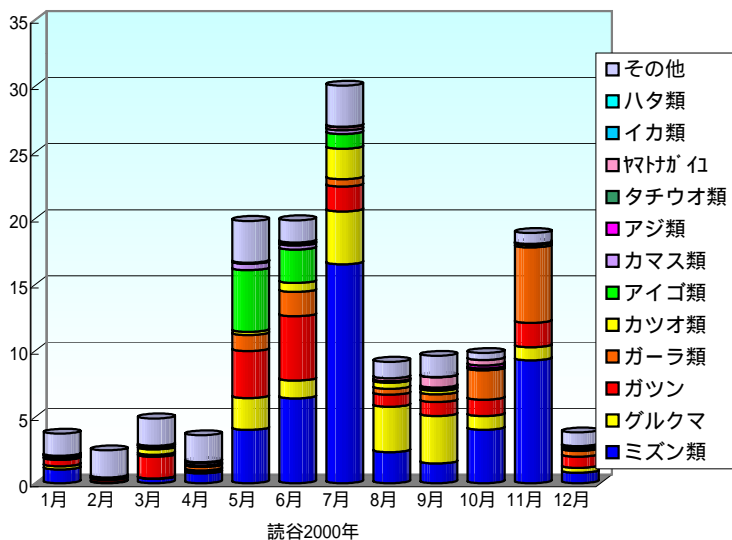
2000年本島8漁協月別魚種別漁獲量 (単位: t)



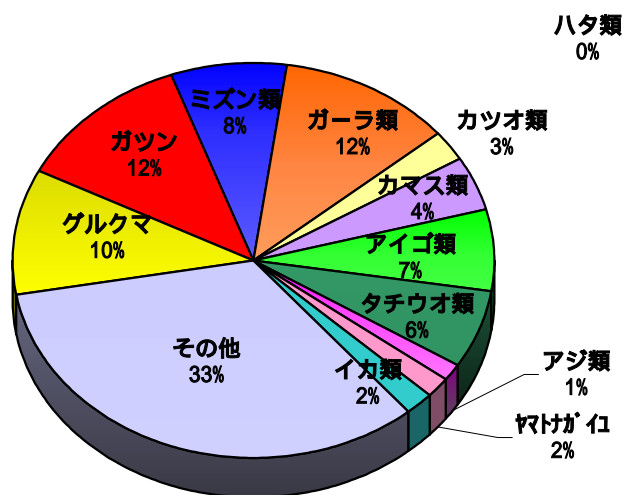
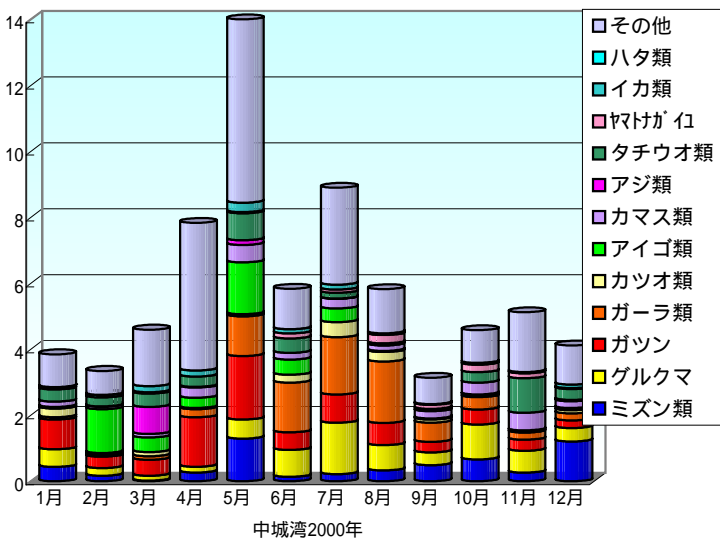
金武湾(本島北部東海岸)における2000年の月別魚種別漁獲量と魚種別の占有率



読谷(本島中部西海岸)における2000年の月別魚種別漁獲量と魚種別の占有率



中城湾(本島中南部東海岸)における2000年の月別魚種別漁獲量と魚種別の占有率





ぐるくまー(グルクマ)

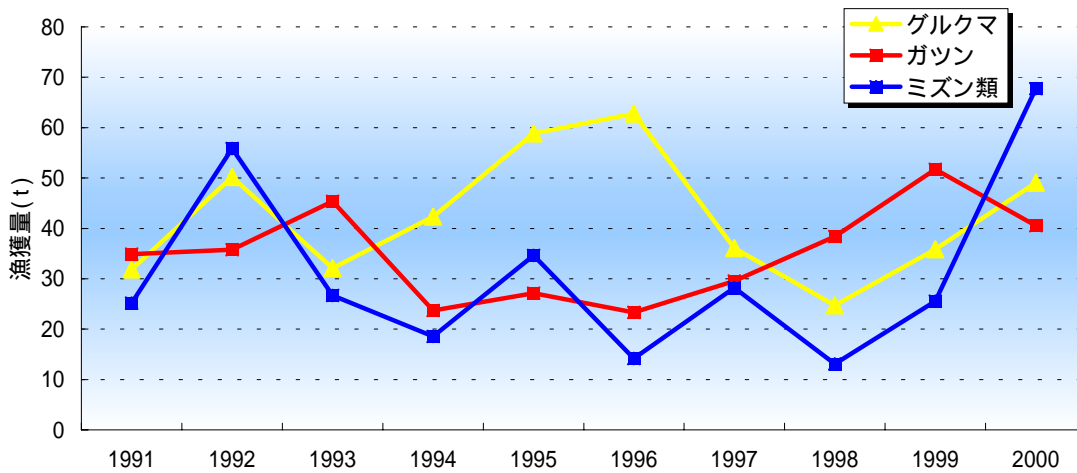


がちゅん(メアジ)

下の図は、1991年から2000年の10年間におけるグルクマ・ガツン・ミズンの漁獲量について示したものです。この3魚種は、本県の定置網で多く漁獲されています。それぞれの魚種間で漁獲の増減等に関係があるかどうかハッキリしたことは言えないようです。ミズンは、1992年のピークから減少傾向にありましたが、2000年は67tの水揚げがあり1992年の55tを大幅に上回り、過去10年間で最も多い漁獲でした。また、グルクマは1996年のピークを迎え、その後減少傾向にありましたが、1998年以降増加に転じ2000年もその傾向は変わらないようです。ガツンは、1996年から増加傾向にありましたが2000年はやや減少しました。

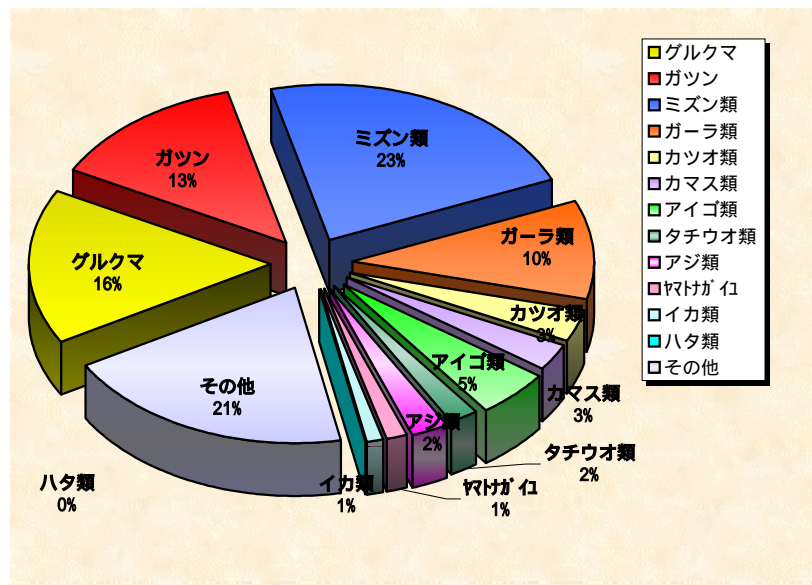
主要3魚種別漁獲量の変遷(1991~2000)

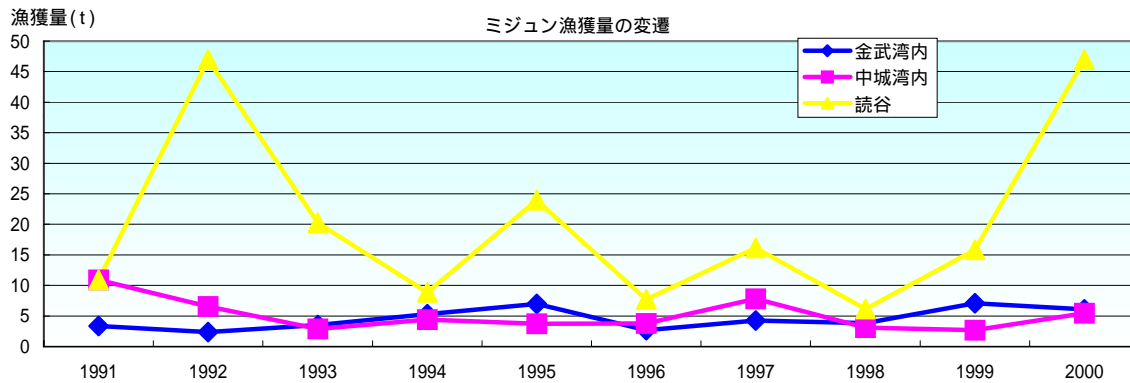
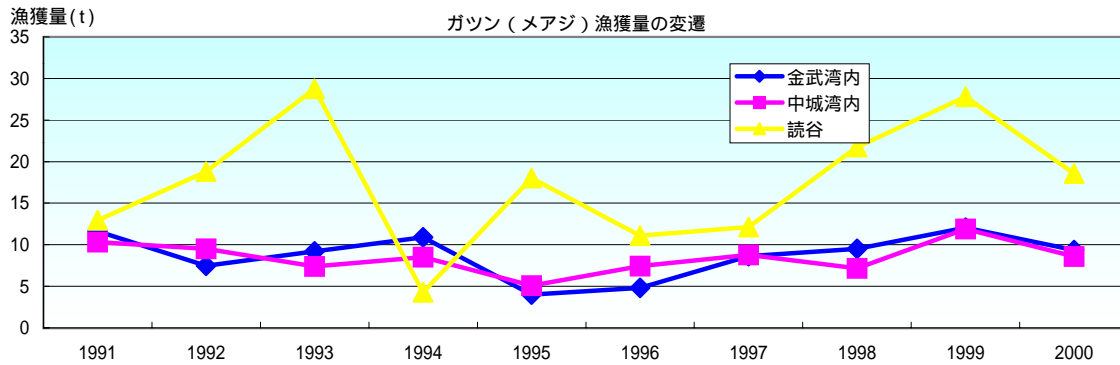
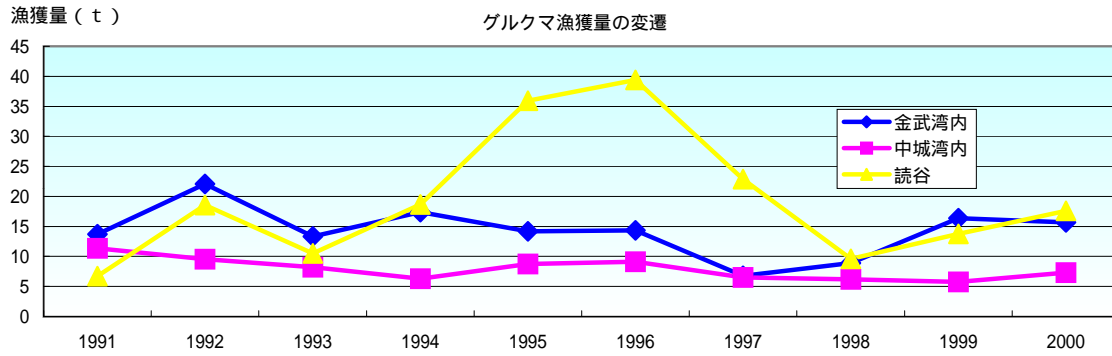
注:1991年~1999年は7漁協、2000年は宜野座を加えた8漁協



2000年8漁協の魚種別占有率

右の図は、2000年の本島8漁協の魚種別の漁獲比率を示したものです。ミズン・グルクマ・ガツンの3種で全体の52%を占めています。ガーラ(ひらあじ類)を含めると6割を占めます。漁協ごとに、漁獲状況は異なる様です。





本島の海域ごとに2000年の漁獲の傾向を示したものです。金武湾(本島北部東海岸:宜野座・金武・石川・与那城)、中城湾(本島中南部東海岸:勝連・与那原・知念)、読谷(本島西海岸)でグループ分けして傾向をみてみました。金武湾では、7月に漁獲のピークがあり、グルクマの漁獲が25%を占め、ガツン14%、ミズン16%が続きました。中城湾では、主要な3魚種が他に比べて少なく、突出して多く漁獲される魚種が少ないようです。漁獲のピークは5月にありました。また、読谷ではミズンの漁獲が36%を占め、他にもガツン・グルクマを含めると全体で63%を占めました。漁獲のピークは、7月にありますが5・6・11月の漁獲も多かったです。また、冬季には漁獲はほとんどありませんでした。これに対し、金武湾・中城湾では冬季でもある一定の漁獲がありました。

各海域ごとの過去10年間の漁獲状況について示したものです。金武湾・中城湾の本島東海岸側では、極端な漁獲変動はみられませんが、本島西海岸の読谷では、年ごとに大きく変動しているようです。特に、ミズン・グルクマの漁獲の変動は大きくなっています。